

IDDNewsletter..... 3

March
2026



特集1

令和7年度北海道高等聾学校専攻科 情報デザイン科修了作品展

令和8年2月18日(水)～22(日)まで市立小樽美術館市民ギャラリーにて、令和7年度北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科修了作品・美術部展を開催しました。修了作品展に出品した3名の学生からの感想を加えながら、展覧会の様子について御紹介します。

特集2

筑波技術大学との連携授業

情報デザイン科では、聴覚障がい学生が在籍する筑波技術大学との連携授業を、2月から3月にかけて行っています。今年度は、3DCADによる立体形状のモデリングや幾何図形を使ったデカールの制作を行い、コンピュータ上でオリジナルマグカップをデザインするという課題に取り組みました。

令和7年度北海道高等聾学校専攻科 情報デザイン科修了作品展

令和8年2月18日(水)～22(日)まで市立小樽美術館市民ギャラリーにて、令和7年度北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科修了作品・美術部展を開催しました。修了作品展に出品した3名の学生からの感想を加えながら、展覧会の様子について御紹介します。

令和7年2月18日(水)～22(日)まで市立小樽美術館市民ギャラリーにて、令和7年度修了作品展を開催しました。展覧会においては、修了生3名が科目「課題研究」において制作したテーマ別の作品(修了作品)に加え、2年間に各科目で制作した課題作品等を展示し、これまでの学習の成果を皆様にご覧いただきました。5日間で140人近い方に御来場いただきました。御来場いただいた皆様、ありがとうございました。修了作品展に出品した3名の学生から感想をもらいましたので、御紹介します。

私は日本地図、七宝焼、グラスカップを作りました。七宝焼きで「おにぎり」を12個作りました。12個のおにぎりを作ることはとても大変でしたが、それでも最後まで一生懸命作ることができて良かったです。

昨年度、先輩達の修了作品展の取組を見てきましたが、今回の自分たちの制作では、メインである「手話の本」「手話カレンダー」を中心に、どのように展示をすればよいか、非常に悩みました。

制作を通して最も大変だったことは、各色の手話イラストを印刷したものをこれをパネルに貼り、切り取る作業です。非常に多くのパネル作りの作業は困難でしたが、最後まで諦めずにやり遂げ、無事に展示することができました。



今回の修了作品展を終えて、ほっとした気持ちと達成感があり、良い経験となりました。「北海道の手話改訂版」の表紙は様々な案を制作し、修正で重ね、完成することができました。今回の展示を通して、より多くの方々に手話の魅力を知っていただけたと思います。「Starry night walk」は、初めてエアブラシを使った作品です。昨年の四月と比べると少しは上達したと思いましたが、まだまだ足りないとも感じます。今回のエアブラシのように、今後も様々な制作に挑戦していきたいと思っています。



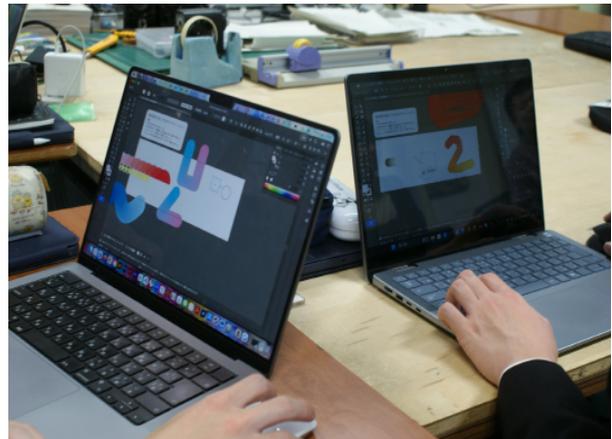
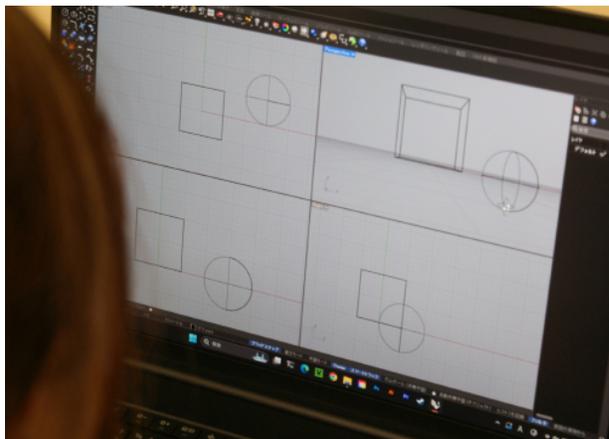
特集2

筑波技術大学との連携授業

情報デザイン科では、聴覚障がい学生が在籍する筑波技術大学との連携授業を、2月から3月にかけて行っています。今年度は、3DCADによる立体形状のモデリングや幾何図形を使ったデカールの制作を行い、コンピュータ上でオリジナルマグカップをデザインするという課題に取り組みました。

専攻科在籍学生を対象に実施している「筑波技術大学との連携授業」を、2月5日（木）から6日（金）の2日間に渡って行いました。本校は、聴覚障がいのある学生が在籍している筑波技術大学と連携協定を結んでおり、多地点共有通信システム等を活用した遠隔授業や教員派遣、双方向交流等を実施しています。今年度は、「Rhinceros」を利用したオリジナルマグカップの制作を進めました。今回も、筑波技術大学

から先生方が来校され、ライブで授業を実施しました。これまでに得た知見を大いに生かしつつ、最前線の技術に触れた授業内容は、大変刺激的なものでした。3月には、オンラインを介した全国の聾学校との発表会も予定しており、より完成度の高い作品ができることと思います。



Contents

特集1

令和7年度北海道高等聾学校専攻科 情報デザイン科修了作品展

令和8年2月18日(水)～22日(日)まで市立小樽美術館市民ギャラリーにて令和7年度北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科修了作品・美術部展を開催しました。修了作品展に出品した3名の学生からの感想を加えながら、展覧会の様子について御紹介します。

特集2

筑波技術大学との連携授業

情報デザイン科では、聴覚障がい学生が在籍する筑波技術大学との連携授業を、2月から3月にかけて行っています。今年度は、3DCADによる立体形状のモデリングや幾何図形を使ったデカールの制作を行い、コンピューター上でオリジナルマグカップをデザインするという課題に取り組みました。

Welcome to Information Design Department !!



入学生を募集しています！

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科は、聴覚障害のある方で、高等学校や、特別支援学校高等部を卒業等していれば、入学できます。それ以外の年齢制限や条件はありません。道外の方でも入学できます。昼食は給食を利用でき^(注1)、希望があれば、寄宿舎に入ることもできます^(注2)。

※入学条件の詳細は、下記アドレス専攻科情報デザイン科Webページ内の「入学者募集」をご覧ください。

専攻科情報デザイン科Webページ

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=228

入学者募集について

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=223

入学に関するお問い合わせ

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「進ずる教育」の教育課程です)
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト^(注3)で、対費用効果の高い学習内容を学ぶことができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象^(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTPやWebに係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Webであれば、HTML5とCSS3を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトやcenterタグは使いません！)
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」^(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスをを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い^(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に選択できるようにしていきます。

注1：1食400円(昼食)で、就学奨励費の対象となっています。注2：学年末・学年始休業日、夏季・冬季休業日は閉舎します。注3：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。注4：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。注5：普通校には通常ない領域で、障害そのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をおして行われます。注6：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本語を母語とする「ろう者」と聞こえづらけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分けられます。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

March 2026 **3**

IDDNewsletter March 2026

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒047-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記Webページより電子メールでご連絡ください。